

簡便かつ頻回採取が可能な検体を用いた家畜疾病の検査方法の開発

研究期間	平成 26 年度～平成 28 年度
課題番号	2605
研究実施機関	(国研)農業・食品産業技術総合研究機構(動物衛生研究部門) 共立製薬(株) (株)微生物化学研究所 アイデックスラボラトリーズ(株) JNC(株)
研究概要	<p>家畜の伝染性疾病を早期に摘発し、そのまん延防止を図るためには、サーベイランスの頻度を増やすことで摘発率を高めることが効果的です。しかしながら、サーベイランスの検体として血液(血清)を採取する際、獣医師・農家の労力及び金銭的コストの負担、家畜へのストレス等による生産性低下等の問題があり、サーベイランスの頻度を増やす場合には、これらの問題を改善することが切望されています。</p> <p>そこで、牛ブルセラ病、牛白血病、オーエスキー病、牛ヨーネ病の血液(血清)を検体とする検査方法(エライザ法)について、乳汁、唾液、糞便等の採取が簡便な材料を検体とすることの可能性を検証し、薬事法上の承認に必要なデータを収集するための研究を実施しました。</p>
研究成果の概要	<p>ブルセラ病、牛白血病の検査薬(エライザキット)について、実用化に耐えうる乳汁検査法を確立することができました。</p> <p>オーエスキー病の検査薬(エライザキット)については、技術的に実用可能なレベルまで到達しなかったものの、口腔液を利用することの有用性を確認しました。</p> <p>ヨーネ病の検査薬(エライザキット)については、その特異性、再現性の観点から実用可能なレベルには到達しなかったものの、乳汁・血清を用いた抗体検査が可能であることを確認できました。</p>
行政における研究成果の活用方針(平成 29 年 9 月時点)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 乳汁を検体としたブルセラ病抗体検査法について、ブルセラ病のサーベイランスにおける検査手法として検討する。</li> <li>・ 乳汁を検体とした牛白血病抗体検査法について、活用を促進する。</li> </ul>

(注)研究実施機関の名称は、研究終了時の名称を記載